

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

2月上旬、長野県ソフトボール協会中信支部が関わる大会の審判員の割付会議が開催され出席する。大会開催日に50人の審判員を確

保する大会もあり今後の審判員の確保の重要性を実感する時でもある。

会場は、松川村のグリーンワークまつかわ。村生涯学習センターだ。初めて訪れたが、管理が行き届いて感心してしまふ。多目的交流センター「すず

たー」すずの音ホール」。地域活性化センター「セピア安曇野」。ふれあい館。ゆうあい館。川西運動公園などの松川の公共施設の充実度に、いつも心が満たされる。

人口も増加しているのだからと考えたが、

## 国等が提案する施策を地域住民が率先して学ぶ大切さを考えてみませんか

信濃毎日新聞の2016年中の県内人口の増減報道で、松川が1年間に1000人減との報道。県全体で1万1389人の減、1年間で村1つが消滅した数だ。地域が生き生きと引き継がれていくに

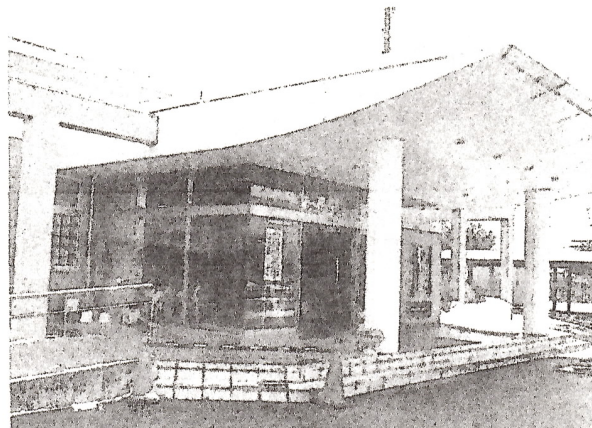
か。全国的課題でもあり、地域活性を目指す国でも、新しい支援事業の取り組みが進められている。その一つが、「歴史的資源を活用した観光まちづくり」だ。2020年ま

絞れば、大北には、古民家の商業利用できる地域や物件は多い。人口減少によって国内旅行の減退は避けられない事態だ。海外から訪れる旅行者は、爆買い旅行から体験型に極端に目的を変更して

は、地域の定住人口の確保が重要な指摘は多い。子育て支援や福祉の充実の施策の取り組みは当たり前、新たな視点での人口増加への早急な取り組みを大北地域で今後どの様に展開されるのだろうか

でに全国で2000地域での取り組みを目指している。国が主導する事業によって、全国至る所に金太郎あめ的な施設が乱立した苦い経験でちゅうちょしてはいけない。地域住民が夢を抱きながら知恵を

地域にある事を自覚する事から始める事だ。地域資源を学ぶ大切さを、観光関係者目らが学ぶ姿勢が地域を活性化し、そこに関係する人が集まり地域を支えていく地域循環に夢をさせてほしい。地域を考



早朝からの降雪の行き届いた除雪や受け付けスタッフの対応が松川村のイメージを高めている

える時には、将来への夢が必要だ。その夢に向かって真剣に取り組んでこそ、継続できる物語が誕生するのだ。そして、その夢が求める、サービスや施設や

食材を地域の中で作り上げていく地産地消が今、大北地域に求められているのだろう。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)